

N F 通信

ice arther

Vol.25



column

01

専門家コラム

西村医院 小児科医師 瀧上 佐智子さん



アレルギーを知ろう！ 気管支喘息

気管支喘息は呼吸をする時の空気の通り道(気道)が慢性的に炎症を起こすために気道が過敏な状態になり、感染や運動など影響があると気道が狭くなり発作が起こり呼吸が苦しくなる病気です。乳幼児期に発症する事が多く発症時期は2～3才がピークです。気管支喘息の80～90%が6才までに発症するため、早期に適切な治療を行う事が大切です。

<原因>

気管支喘息はアレルギーを起こしやすい遺伝因子（お父さん、お母さんがアレルギーもちなど）に、アレルゲンや感染、受動喫煙、大気汚染などの環境要因が作用する事により引き起こされます。

<小児の喘息の症状>

泣いたり不機嫌になる事が多くなる
風邪を引くたびに咳が続く
呼吸をするときにゼーゼー、ヒューヒューと音が出る
遊び回ったり運動をすると咳が出る
夜間や早朝に苦しい咳、眠れない

<治療の3本柱>

気管支喘息について理解をした上で

①ダニ、ハウスダスト対策などの悪化因子の対策 ②薬物療法 ③体力づくり で成り立っています。

薬物療法としては気道の炎症を抑えるための長期管理薬と、発作時に使用する発作治療薬があります。慢性的な気道炎症を抑えるためには、症状がなくても長期的な治療を継続する事が大切です。

<気管支喘息の予防>

乳幼児期に風邪の代表的な原因ウィルスであるRSウィルスやヒトメタニューモウィルス、ライノウィルスなどのウィルス感染を繰り返すと喘息を発症しやすいと言われています。そのため手洗いなどの感染予防が大切になります。また、一般的な風邪の大部分がウィルス感染であり抗菌薬は効果がありません。不要な抗菌薬の使用を避けることも必要です。

アレルギーの原因が乳児期から幼児期にかけて食物からダニやハウスダストにアレルゲンが変化していくことからダニ対策を中心とした環境整備を行なうことが発症予防につながる可能性があります。受動喫煙環境には絶対置かないでください。さらに、アトピー性皮膚炎を発症している場合は、皮膚に炎症がない状態に保つことで皮膚から体内にダニやハウスダストのアレルゲンが侵入するのを防ぎ、喘息の発症予防につながる可能性があると言われています。

あなたも投稿してみませんか

採用者には、こども商品券贈呈！

